

平成 30 年 7 月 31 日

## 環境アレルギー分科会

### 1. 目的

人の健康に影響を与えるアレルゲンは多岐にわたり、一般アレルゲン（吸入・刺咬・食餌・薬剤性）と職業アレルゲン（吸入・接触性）に分類される。

アレルギー症状は、原因物質に含まれるタンパク質や糖タンパクが、人体を構成するタンパク質とは異種である際に、抗体が産生され、それに伴って過剰な免疫反応が起こり、アレルギー症状が引き起こされる。

現代人にとって厄介な花粉症、アレルギー性鼻炎、気管支喘息、アトピー性皮膚炎などは、花粉、ハウスダスト、真菌などの環境アレルゲンによって引き起こされ、また空気中のアジュバント物質で増悪されると言われている。

大事なことは、いずれのアレルゲンにおいても、アナフィラキシーショックなどの深甚な症状はもとより、通年性症状の発生を防止することである。

環境アレルギーについては、国民的関心が高く、その具体的な発症防止策が求められているが、この課題解決には医学を中心とする学際的なアプローチが必要となる。

本分科会は、以上のことを勘案し、医学、疫学、化学、建築学などを専門とする会員の連携の下に、本学会の中に室内環境におけるアレルギー問題を整理し、測定法や環境改善によるアレルギーの防止対策を検討することを目的としている。

### 2. 活動計画

初年度分科会を 3 回程度開催し、下記に示す検討を行う。

1 回目：環境アレルギーに関する基礎的な知識・情報を文献の収集整理を通して共有する。

2 日目：環境アレルギーの現状について、文献を整理し、情報を共有する。

3 回目：本年度の研究成果をまとめ、次年度の大会でポスター発表の準備を行う。

### 3. 分科会 代表者：平久美子（東京女子医科大学）